

壁紙は色柄などの意匠性を重視した仕上げ材です。コンクリートなどの他の建材と異なり、長期間にわたる維持はできません。適切なメンテナンスを行いながら使用状況に応じて5〜10年を目安に張替えをおすすめします。

壁紙のメンテナンス

(工事終了後、以下の内容について)
入居者の方にご説明ください。

壁紙は室内のホコリや結露、油汚れや手アカ等の付着により徐々に汚れていきます。また、結露はカビの発生や壁紙のハガレを誘発させることもあります。使用状況や環境にもよりますが、仕上りの美しさを維持するには、日常のメンテナンスと使用上の注意が必要となります。

一般的注意事項

1. 入居後は、まず換気を

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行ってください。



2. 直射日光からの保護

直射日光が長時間当たると、紫外線により壁紙の劣化と変色が徐々に進みます。カーテンやブラインドを使用し、直射日光を避けるよう心掛けてください。

3. 熱風、高温を避ける

ストーブ等の暖房器具の熱風が直接壁紙に当たらないようにしてください。また、キッチンのレンジやダウンライトのすぐ近くなど、高温になる場所への使用は避けてください。熱により壁紙が変形、変色することがあります。

4. 粘着テープを貼らない

粘着テープ(セロハンテープやガムテープ等)を壁紙に貼付けないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙を破損することがあります。粘着力の弱いものでも、貼付けたまま長時間放置することで壁紙の変色や破損が発生することがあります。



5. 薬品や化粧品などを付着させない

スプレー式の薬品、殺虫剤、化粧品等を壁紙に付着させないでください。壁紙が変色することがあります。

6. 傷を付けない

壁紙表面を破損しないようご注意ください。破損すると補修が困難です。日常生活において、家具や荷物等を当てない注意が必要です。

表面強化 の表示のある壁紙は、傷が付きにくくなっています。



7. 家具を壁面に密着させない

家具の塗料に含まれる色素やベニヤの色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙との間に空間の余裕を取ってください(結露やカビの予防にもなります)。



汚れ

壁紙の汚れには多種多様なものがあります。重要なことは「汚染物を付着させない」とこと、「付着したらすぐに拭取る」ことです。汚れが付きやすい場所には **汚れ防止** の表示のある壁紙をおすすめします。ただし、汚れの種類によっては完全に拭取ることができないものもありますのでご注意ください。

日常のお手入れ

日常のお手入れは、ハタキをかけたり布・タオル等でホコリを拭取ってください。

- ホコリを長期間放置すると、湿気や油分を吸って取りにくくなります。
- 調理による油煙やタバコの煙は壁紙を短期間で変色させてしまうため、常に室内の換気に心掛けてください。

汚れが付着したら

1. 水性の汚れ(飲食物や調味料等)

水性の汚れが付着したら、すぐに固く絞ったタオル等で汚れを吸い取るように水拭きしてください。取れにくい場合には中性洗剤を薄めたものをご使用ください。

- 水の絞り方が弱いと目地部から染込むことがあります。シミやハガレの原因となりますのでご注意ください。
- 中性洗剤を使用した場合は、必ずきれいな水で壁紙表面に残った洗剤を拭取ってください。洗剤が残ったままだと変色の原因になります。
- シンナー等の有機溶剤は変色や色落ちの原因となりますので使用しないでください。
- 長期間放置されて染み込んだ汚れは、頑固な汚れとなり落とすことができません。

2. 油性の汚れ(油汚れやマジックペン等)

頑固な汚れとなり一般ビニル壁紙の場合、拭取ることができません。

<汚れ防止壁紙の場合>

表面のフィルム加工により壁紙内部に汚れが浸透しにくく、汚れが拭取りやすくなっています。水拭きまたは中性洗剤を薄めたものをご使用ください。また、最後は必ずきれいな水を用いて残った洗剤分を拭取ってください。凹部などの細かな箇所などは歯ブラシを用いると効果的です。油性マジックなどの頑固な汚れには消毒用アルコールが使用できますが、完全に拭取ることができない場合があります。シンナー等の有機溶剤は変色や色落ちすることがありますので、あらかじめ目立たない箇所を確認してからお使いください。なお、タバコのヤニのように、長期にわたって蓄積された汚れは完全に拭取することは困難です。

ハガレ、隙間

時間の経過と共に、部分的にハガレが生じることがあります。ハガレが広がる前に、文房具糊や木工用水性接着剤を壁紙裏面に塗布し、壁紙になじませてから圧着して補修してください。天井部と壁面との見切り部分や壁面の入隅等では、躯体(建物)の動きによって隙間の発生することがあります。この場合には、壁紙用のコーキング剤(合成樹脂系充填剤)を充填して隙間を埋めてください。ただし、表面に用いた場合、コーキングの性質上、ホコリ等が付着し徐々に汚れてくる場合がありますのでご注意ください。

結露

水蒸気の発生しやすい場所では、湿度の高い状態が続くと、結露によるシミ、ハガレ、カビの原因となります。水蒸気の発生を少なくすること、室内の換気や除湿を心掛けてください。カビは壁紙を汚染するだけでなく、そこで生活をされる方の体調に影響を及ぼす恐れがありますので注意が必要です。

1. 水蒸気の発生源を少なくする

ガスや石油の開放型ストーブをエアコンに切替えたり、加湿器の使用を控える等の工夫をしてください。

2. 換気、除湿を行う

換気回数を多くし、暖房等から発生した水蒸気を外へ排出してください。浴室や料理時の水蒸気などは換気扇を使用して排出してください。除湿器、吸湿剤等を使用し、余分な水蒸気を除去することも有効です。



3. 通気を良くする

家具裏などの空間に余裕を取り、家全体の空気の流れを良くする工夫をしてください。

カビ

カビは壁紙を汚染するだけでなく、そこで生活する人のアレルギーや喘息等の原因になることがありますので注意が必要です。防カビ性壁紙を使用しているだけではカビを防ぐことはできません。カビを防ぐには、換気に心掛け、通風を良くし湿度の上昇を抑えてください。

カビが発生したら

カビが表面の一部に発生した場合は、カビが飛散しないよう濡れタオル等で拭取ってから充分乾燥させてください。再発防止策として、消毒用アルコール等での殺菌が効果的ですが、壁紙表面が色落ちしたり変色したりすることがありますので、目立たないところで確認してから行うようにしてください。カビが大量に発生している場合は、下地からの修繕が必要となる場合があるため、専門業者の方に相談することをおすすめします。